

喜多方市赤十字奉仕団

喜多方市赤十字奉仕団				
活動年度	活動期間	内 容	実 績	参加人数
1	2011年3月	炊き出し準備	250名	250名
2	2011年3月	炊き出し開始	600個	600名
3	2011年3月	炊き出し終了	600個	600名
4	2011年3月	炊き出し完了	600個	600名
活動2年度				
1	2012年3月	炊き出し準備	250名	250名
2	2012年3月	炊き出し開始	600個	600名
3	2012年3月	炊き出し終了	600個	600名
4	2012年3月	炊き出し完了	600個	600名
活動3年度				
1	2013年3月	炊き出し準備	250名	250名
2	2013年3月	炊き出し開始	600個	600名
3	2013年3月	炊き出し終了	600個	600名
4	2013年3月	炊き出し完了	600個	600名



[活動の実績はこちら](#)

★いつころから活動されていますか？

- 2011年3月13日 社協にて炊き出し支援準備会議
3月14日 社協にて炊き出し開始。朝6時～おにぎり600個作成。
数日間、毎日実施。その後避難所におにぎりとお惣菜まで作る炊き出し。同時に物資配布も実施。毎年2回北海道芽室・尾藤農園よりたくさんのジャガイモ・とうもろこしを被災地へ配布も続けている。
- 2012年3月19日 日赤福島県支部より、仮設住宅訪問要請についての指導をいただく。喜多方支部各奉仕団を集めて支援準備会議
- (特別支援事業)
2014年9月1日 岩国市西商工女性部「ちんどん隊キャラバン」 仮設慰問 喜多方市奉仕団主催
2014年10月20日 飯田市赤十字奉仕団「紙芝居」キャラバン隊 仮設慰問 喜多方市奉仕団主催

★対象はどちらの地域の方ですか？

- 大熊町町民の皆さん。会津若松市長原仮設住宅(大熊町より避難された皆さん)

★どんな活動をされていますか？

- 我が奉仕団の支援活動の主な事業は仮設住宅訪問「にこにこお楽しみ会」。
- 2012年3月19日に県支部より要請、ご指導を受ける。
- 7月5日会津若松市長原仮設住宅を訪問し、自治会長と日赤県支部の職員、奉仕団委員長、役員、社協職員との打合せ。
8月5日、第1回「にこにこお楽しみ会」実施。
- 「にこにこお楽しみ会」の際は、毎回委員長の電子ピアノの伴奏で皆さんと童謡、唱歌、ご希望の歌を大きな声で歌って心と身体をほぐし(音楽療法)、簡単な手芸(起き上がり小法師、クリスマスリース、新年の抱負色紙、壁掛けメモ帳、会津木綿の楊枝入れ)等を作り、母の日のカーネーションアレンジメント、植木鉢に寄せ植え、昔遊び(お手玉、けん玉、紙ふうせんバレー)等、時には本格的なお手前での抹茶サービスのお茶会、おいしい栄養たっぷりの昼食会等を実施。幸いにも委員長の音楽療法をはじめ、お茶、お花、手芸、語り部、全て団員の特技を活かし、指導者は全て自前でやっている。
- 団員の方が個人的に絵手紙のやりとりを続けている。月1回、2回ほどの頻度で、当初お一人の方とやりとりしていたが、隣に座っていた方も「私もやりたい」と言ってくださり、現在は2名の方と絵手紙交換をしている。団員は季節のシールや、折り紙で葉書を飾るなど毎回工夫して文通している。大変喜ばれ、今現在もフレンドリーな関係を築いている。



被災者の方と絵手紙のやり取りも

★活動を始めるとき、どこでだれと協議しましたか(どなたの発案ですか?)

- 県支部より要請で奉仕団に集まるよう話があり、支援活動の打診があった。何か支援をしたいと思っていたが、喜多方市には仮設住宅がないことから、県支部職員、奉仕団委員長、役員、社協職員とで長原仮設住宅を訪問し、自治会長と活動を始めるに当たってのニーズ調査や打合せ等の協議を慎重に重ねた。

★被災された方々の声はどうでしたか?

- 「家が無ければあきらめがつくだろう。俺は行っても近寄れない。目の前に家があるのにあきらめられない」などと会話していた。
- 当初はお互い仮設住宅の中のどこに住んでいるかわからない方が多かった。
- 支援当初より、委員長が電子ピアノで伴奏し、みんなで歌った。「こんなに大きな声で歌ったのは初めてだ」と大変喜んでくださった。暗黙の了解で「ふるさと」などは歌わないようにした。こちらから「大変でしたね」なども言わなかった。みなさんからの要望に応える形で活動にあたった。男性の方も「金太郎」など懐かしい童謡などを歌った。
- 支援を受けて、被災してから初めて声を出して笑ったとおっしゃっていた。
- 歌を歌って家族や友人、ふるさとを思い出して懐かしく思った。一人では歌えなかった、みんなと一緒に歌って楽しい気分になれた。同じ歌を歌って仲良くなれた。
- 団員の語り部が語る会津の郷土料理の話(こづゆ)は大変面白かった。植木鉢にそれぞれ好きな花を寄せ植えして持ち帰り、毎日世話ができて楽しかった。
- AED と救急法は、被災しているので必要性を強く感じ、大変ためになった。皆さんの要望に応じて、毎年やることにしている。
- 少しずつではあるが、移る決断をし、仮設住宅を後にする方も出てきた。その際「会津がいい所だから会津に決めた」「前の所には戻れない、会津は雪が多いから郡山に決めた」などとおっしゃっている。
- 毎年の芋煮会にご招待されて、会津の人の気分で楽しかったと言ってくださった。
- 2015年7月4日喜多方プラザに於いて、喜多方市赤十字奉仕団創立30周年記念式典、並びに「地球のステージ」にご招待されて、感動し、嬉しく楽しい有意義なひとときだったなど、感謝しているとお手紙を頂いた。



★支援活動において良かったことは何かありますか?

- 支援を始めた当初は言葉を一つ一つ選び会話にも気を使ったが、今では気兼ねなく会話もできるような関係を築くことができ、私達は元気を頂いている。
- 私達も楽しく嬉しい。仮設住宅の皆様からもお気遣いの言葉をかけて頂き、「元気か?」「大丈夫か?」など。ありがたい限り。
- 長年、自治会長が仮設住宅をまとめて下さっていたので、活動しやすかった。
- こんなに長く来てくれているのは日赤さんだけだと言われた。単発的に支援は入るが、長期的に支援を実施している団体はあまりない。
- 県支部の支援(本社よりの海外救援金による支援)があるからこそ実施できることと団員一同、心から感謝している。

★大変だったこと・困ったこと等ありましたらお聞かせ下さい

- 基本的には大変だったこと、困ったことはありません。
- 仮設住宅の人数が減ることはいいことだと思う。今までは良かったが、これからの方が本当に大変と感じる。
- いつも27、8名だったところ最近は14名、支援する人数も少しずつ減っている。私達は被災者が最後の一人になっても支援をし続けていきたい。
- 仮設住宅の中でも、奉仕団の訪問があることに対して、誘われなかったなど聞くこともあったが、仮設住宅の中での人間関係も大変なのではと感じた。また、私達が間に入ることによって関係が保たれていると感じる時もある。同じ棟に住んでいてもコミュニケーションを図るのは大変なのだと思う。お互い大熊町に「家はある」「家はあるが入れない」など、多少なりとも背負っているものが違うからしょうがないのかな、とも思う。

★支援活動前に知っていれば良かったことは何かありますか？

- 活動の柱に「寄添う」と決めていたので、その時のご要望に合わせて活動を変えてきたので特にはない。
- あれを言っではいけないとか、これは NG など申し合わせもなく、奉仕団の気持ちのまま自然体で活動に当たった。
- ただ向こうから打ち解けて話してくださるのを待ったので、特に問題はなかった。自然に両方から打ち解けた。

★今後の支援活動において何か新しい取組み等がありましたらお聞かせ下さい

- 支援活動が会津若松市と言うこともあるので、喜多方市の名所めぐりなど実施したい。

★支援者(奉仕団や他団体)の「こころのケア」の必要性を感じますか？

- 何よりも皆さんの笑顔を見ることで、我々団員は充分であり「嬉しい限り」です。
- 私どもはこれまでに40回ほど訪問しております。長く続けているからこそ、長原仮設住宅の皆様と互いに信頼しあえ、うまく活動できているのだと思います。ありがたいことです。
- 活動も重荷に感じてやっではいませし、無理なく楽しく活動できています。

